

## 学校関係者評価

(1) 日 時 令和7年2月28日(金) 14:20~15:20

(2) 方 法 学校経営支援委員会議

(3) 評価者 学校経営支援委員3名

(4) 内 容 令和6年度の学校生活アンケートの結果の分析へのご意見

(5) いただいたご意見

- ・現2年生以下の子どもたちを見ると能動的に船穂小学校を選び、いきいきと活動しているようだ。自然、人間関係等の利点を今後も生かしてほしい。
- ・地域にも様々な考えがある。以前の学校存続の要望にも賛否両論あった。しかし、存続と決めたからには小規模特認校としての役割と地域の思いとの両方を考えていかなければならない。
- ・学校評価を経年変化(5年くらい)で見えていくとより傾向と対策が見えてくるのではないか。
- ・今後とも、「船穂小の子ども」のため、地域の将来のため、よろしく願いたい。
- ・安全面については、地域の力を生かして、通学路の見守り等が今後できるようになると地域と学校が協力体制になるのではないか。
- ・船穂小学校では、他の学校と比べると体験できることに大きな違いがある。少人数だからこそできることを今後も生かしてほしい。
- ・行事(6年生を送る会)での児童の様子、職員の様子から日々の先生方の努力が成果となって表れていることを感じられる。
- ・9月に行われた「平和事業」についてよい学習の機会となった。親子環境整備等の行事と重ねたがあまり人数は増えなかった。次なる手立てとして何があるのか考えたい。
- ・個にあった指導は、少人数だからできるという単純な事ではなく、職員一人一人が児童一人一人を理解するところから指導を始めた結果だと思う。
- ・昨年度に比べ「わからない」が増えたのは、考察にあるように転入生が増えたことが要因と思われる。今後も転入生が増える事が考えられるので、数字だけの評価がし辛くなってくることも考えられる。